観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和７年７月３０日

１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･地域ＤＭＯ	
観光地域づくり法人の名称	（一社）田川広域観光協会	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 福岡県内の田川市、香春町、添田町、糸田町、川崎町、大任町、赤村、福智町	
所在地	福岡県田川市魚町８－２７　三愛ビル１階	
設立時期	平成２４年４月１２日	
事業年度	４月１日から翌年３月 31 日までの１年間	
職員数	３人【常勤３人（正職員３人）】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 二場　公人	前田川市長。 ２期８年に渡り田川市長を務め、田川地域の広域連携の推進に寄与。現在は田川市実践型栽培施設において、特産品であるパプリカの生産に携わっている。 田川市長を務めた経験や田川地域内外に多くの人脈を有している。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー ※必ず記入すること	（氏名） 坪根　法広「専従」 （一社）田川広域観光協会	平成２６年度より（一社）田川広域観光協会に勤務。 委託事業である「田川まるごと博物館プロジェクト」を中心に協会の事業を展開してきた。福岡県観光連盟の人材育成事業では研修生を受け入れた実績がある。
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 原田　忠「専従」 （一社）田川広域観光協会	田川信用金庫を退職後に、田川地域内の各種団体の会計責任者を務めた。財務責任者として、協会の運営資金の確保に尽力。
各部門（例：プロモーション）の責任者（専門人材）	（氏名） 谷口　美絵「専従」 （一社）田川広域観光協会	田川地域の地域資源に精通し、地域のブランディングに能力を発揮する・ 観光素材の掘り起こし・磨き上げによって企画された体験プログラムは高い人気を誇る。

様式１

連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	福岡県、田川市、香春町、添田町、糸田町、川崎町、大任町、赤村、福智町 【福岡県】 ○商工部観光局観光政策課 ・新規事業支援等（アドバイス）を受ける。 ○企画・地域振興部市町村振興局政策支援課 ・田川地域に関連する観光系予算を措置 【田川市、香春町、添田町、糸田町、川崎町、大任町、赤村、福智町】 ○観光課 ・田川広域観光協会の事業や活動に対して人材の派遣や公共施設の貸出等の支援。 ・市町村負担金等の各種申請の窓口業務を担う（財政支援）。 ・田川広域観光協会の財政問題や法人として運営体制を協議し、観光地域づくりの推進に係る基本方針を決定
連携する事業者名及び役割	○ＤＭＯ ・広域連携ＤＭＯ・・・・・・・（一社）九州観光地域推進機構 ・地域連携ＤＭＯ・・・・・・・（公益）福岡県観光連盟 ○公共交通事業者等（アクセス改善・ツアー企画等の協力） ・九州旅客鉄道株式会社・・・企画協力（観光列車の運行、イベントやＰＲ活動での協力） ※担当部署 ・ＪＲ九州鉄道事業本部旅行課 ・ＪＲ九州筑豊篠栗鉄道事業部 ・平成筑豊鉄道株式会社・・企画協力（観光列車の運行） ・日本航空株式会社・・・・企画協力（諸企画におけるスタッフ派遣） ※担当部署 ・日本航空福岡支店 ・田川構内自動車グループ・・タクシー車内での観光パンフレット配架等 ○道の駅・直売所、温泉施設 田川広域観光協会が各団体等のイベント情報等をホームページ等で情報発信。また、イベント開催時には人材派遣等の交流を実施。 ・道の駅おおとう桜街道・・・誘客に係る企画協力、来館者データの提供 ・道の駅香春・・・・・・・・誘客に係る企画協力、来館者データの提供 ・道の駅いとだ・・・・・・・誘客に係る企画協力、来館者データの提供 ・道の駅歓遊舎ひこさん・・・誘客に係る企画協力、来館者データの提供 ・赤村特産物センター・・・・誘客に係る企画協力、来館者データの提供 ・川崎町農産物直売所・・・・誘客に係る企画協力、来館者データの提供 ・田川農業協同組合・・・・・誘客に係る企画協力、来館者データの提供 ・ふくちの郷・・・・・・・・誘客に係る企画協力、来館者データの提供 ・日王の湯・・・・・・・・・誘客に係る企画協力、来館者データの提供 ・松原温泉・・・・・・・・・誘客に係る企画協力、来館者データの提供 ・源じいの森温泉・・・・・・誘客に係る企画協力、来館者データの提供 ・ふじ湯の里・・・・・・・・誘客に係る企画協力、来館者データの提供 ○まちづくり団体 ・香春町観光協会・・・・・・企画協力（観光商品造成、人材等派遣） ・田川市観光協会・・・・・・企画協力（観光商品造成、人材等派遣） ・田川青年会議所・・・・・・企画協力・人材派遣 ・田川商工会議所青年部・・・企画協力・人材派遣 ○（一社）田川広域観光協会ボランティアと専門部会 ※観光関連会社やまちづくり団体の職員、会員により組織されている。 ・情報発信部会・・・・・・・マーケティング、Ｗｅｂデータの解析

様式１

	・田川観光プロデュース部会・誘客活動、地元でのおもてなし活動 ・温泉施設代表者部会・・・・入館者データ等の情報交換 ・交通部会・・・・・・・・・・情報発信等の協力
官民･産業間･地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	【該当する登録要件】】① ○理事会 （一社）田川広域観光協会の業務における最高意思決定機関である理事会は構成市町村の首長及び構成市町村議会議長、地元選出県会議員、商工関係代表、青年会議所理事長など多様な関係機関の代表者等で構成される。 理事会の下に正・副理事長会議等を設置し、事業の実施に係る連絡調整や観光戦略の共有を図っている。 ○観光担当者・部会長会議 田川地域８市町村の観光担当職員や福岡県職員と（一社）田川広域観光協会を含む観光団体との連絡調整を行う会議。月に１回程度開催しており観光に係る各種連絡や報告とイベント等の企画調整を行う。 ○まちづくりプロデューサー会議(ボランティア部会、専門部会) 情報発信部会と田川観光プロデュース部会から構成される（一社）田川広域観光協会の事業をサポートするボランティア団体。構成メンバーは青年会議所や観光団体等の会員、職員等で構成されており、飲食業や宿泊業経営者など多様な構成員で組織されている。
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	○観光まちづくりを目的にした各種セミナーやフォーラムを開催 平成２４年度の（一社）田川広域観光協会の設立の翌年より、観光振興によるまちづくりの機運を高めることを目的にまちづくりフォーラムを実施している。 ○マーケティング･マネジメント対象地域での会員獲得 観光地域づくりの基盤づくりや地域住民への理解を求めるため（一社）田川広域観光協会の会員を募る活動を商工会議所や商工会の協力のもと実施。 ○まちづくり団体との共同イベント・支援の実施 田川青年会議所や田川商工会議所青年部、英彦山の歴史と文化を守る会などのまちづくり団体の企画に参画し、資金や人的支援を実施している。 県五大祭り「川渡り神幸祭」のゴミステーション。ゴミ箱には地域の小学生の絵が描かれている。（画像・左） 産炭地「田川」でミニＳＬを運転（画像・右） ○各種イベント実施におけるボランティアの受入れ （一社）田川広域観光協会が実施する大型イベントに地元の大学生や高校生等のボランティアを受入れており、地域住民と共にイベントを企画実施する取り組みを行なっている。 ① 第 16 回 TAGAWA コールマインフェスティバル～炭坑節まつり～ ・受入れボランティア：福智高校、田川高校、田川科学技術高校 ② まつりＩＮ田川（風治八幡宮川渡り神幸祭） ・受入れボランティア：福岡県立大、福智高校、東鷹高校等 ○ＤＭＯの説明及び当協会の活動実績の紹介 ・観光誌にてＤＭＯの説明と協会の実績を紹介

様式１

	 観光誌名：「田川の祭り」 発 行 日：令和７年３月 発行部数：5,000 部 配下施設：マーケティングエリア内の市町村公共施設を中心に 100 施設。 内　　容：田川地域で開催される神事を紹介。協会事業や DMO について説明している。
法人のこれまでの活動実績	【活動の概要】 平成２３年４月、日本で初めてユネスコの「世界の記憶」に「山本作兵衛コレクション」が登録され、地域における観光振興の盛上りを受け（一社）田川広域観光協会が設立された。平成２６年度から田川地域への交流人口の獲得を目的に体験交流プログラムの開発や福岡・北九州都市圏を中心としたプロモーション活動、観光誌の定期発行を実施している。また、地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発、参画促進の取組は協会設立からの重点施策であり、協会運営の支えとなる「まちづくりプロデューサー」の育成と活用、地域住民に啓発を促す「まちづくりフォーラム」を基幹事業として実施している。 《情報発信・プロモーション活動・環境整備》 ① 観光誌「はっち」の発行 ・観光誌を平成２５年度より毎年２回、各号３０，０００部程度発行している。なお、令和６年度は作成せず、ホームページの改修を実施した。令和８年度に「はっち」を発行予定。 ②都市圏での観光ＰＲ活動 ・田川地域８市町村の観光ＰＲを令和６年１２月に大阪国際空港で実施。都市圏で特産品の販売やふるさと納税等のＰＲを行った。 ③協会ホームページ「たがわネット」の運営 ・平成２４年度よりホームページを運営。田川地域のイベント情報などを掲載している。令和６年度に改修し、田川地域の観光情報を一元的に発信できるようになった。 ・アクセス数の変化 令和５年度約３２万１千回→令和６年度２２万１千回 ※ホームページの改修により、他サイトへ移動する仕様にしたため減少。 ④ＳＮＳ等を活用した情報発信 ・上記ホームページのイベント情報や地域イベントの様子を投稿。 《観光セミナー・住民参画事業・受入環境の整備》 ①まちづくりフォーラムの開催 ・平成２５年度より地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発や参画促進を目的に実施している。平成２７年度に実施した地域の歴史に係るフォーラムに約５００名以上が参加し、以後、地域の歴史や文化を考え観光振興に寄与することを目的に実施している。 ②田川古代史講座の開催 ・平成２７年度に実施したまちづくりフォーラムの反響を受け、地域で活動する市町村と郷土史会と連携し歴史を学ぶ場として開催している。 ・令和６年度開催数は３回、参加者数は合計３００人。なお、講座は YouTube にて動画配している。視聴回数は年間約８万５千回。

③各種セミナーの実施

・地域住民や観光産業従事者、市町村職員向けに各種セミナーを実施している。

開催年度	内容	参加者数
令和３年度 令和４年度	・開催中止 ※新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から中止	
令和５年度	・観光マーケティングセミナー 講師：鴨志田　武史氏 （株式会社価値総合研究所） ・観光地域づくり法人先進地視察研修 視察研修場所は、観光まちづくり法人である平戸観光協会、佐世保観光コンベンション協会	・３０名 ・１１名
令和６年度	・観光地域づくり法人先進地視察研修 海峡都市関門ＤＭＯに視察研修に訪問。座学及び実施事業の説明を受ける。 講　師：（一社）海峡都市関門ＤＭＯ 巌洞代表理事 参加者：市町村職員９名 地域おこし協力隊１名 商工会議所職員１名 飲食業者２名 商工会関係３名	・１６名

《観光資源の磨き上げや商品等の開発》

①あったがわの旅の実施

体験プログラム等を通して田川地域の魅力を伝え交流人口の拡大を図る事業。平成２５年度より実施しており、平成３０年度からＪＲ九州の協力により観光列車を田川地域に入線させ注目を集める。

開催年度	合計開催数・主なプログラム	総参加者数
令和３年度	委託事業元より、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から事業の代替指示があったため、観光ＰＲ動画の製作を実施した。しかし、連携企業との協議により、協会自主事業として、ＪＲ九州及び日本航空とのコラボ企画を実施した。 ・Ａ列車で行こう！日田彦山線ツアー	１００名
令和４年度	・合計５本開催 ・日田彦山線観光列車入線 ・トレッキング、登山、オルレ	１６７名
令和５年度	・日田彦山線観光列車入線 ・トレッキング企画 ・登山企画 ・キャンプ企画	１００名
令和６年度	・イベント開催に併せたツアー ・トレッキング企画	７２名

	・登山企画① ・登山企画②（雨天中止）	

《マーケティングに係る調査》

①交流人口動態調査

性別、年齢、来訪目的等を調査する対面ヒアリングアンケートを実施している。アンケート調査結果は関係団体に配付。

・令和４年度も福岡市中央区天神にて約３００のアンケートを回収・分析した。

・令和５年度は福岡市中央区天神にて、アンケート調査を実施。サンプル数は３００超。

・令和６年度は田川市石炭記念公園にて、アンケート調査を実施。サンプル数は２８５。

③会費獲得活動

田川広域観光協会では自主財源確保のため会員増強活動を実施している。会員には協会が主催するイベント等のチケットや記念品を配付し会員の維持促進に努めている。

年度	会員数 （法人口数・個人口数）	会費合計
令和３年度	８６口・１８７口	１，４２１千円
令和４年度	６７口・１５６口	１，１３８千円
令和５年度	６６口・１２２口	１，０２６千円
令和６年度	５４口・１１６口	９２８千円

【定量的な評価】

項目	数値	前年比
旅行消費額	４，５２７百円	前年比１０６．５％
延べ宿泊者数	２３６千人	前年比１１７．４％
観光入込客数	４，０８１千人	前年比１０２．９％
体験プログラム数・参加者数	開催本数　３本 ※１本中止 参加者　７２人	前年比７５％ 前年比７２％
会費総額	９２８千円	前年比９０％

実施体制
※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。

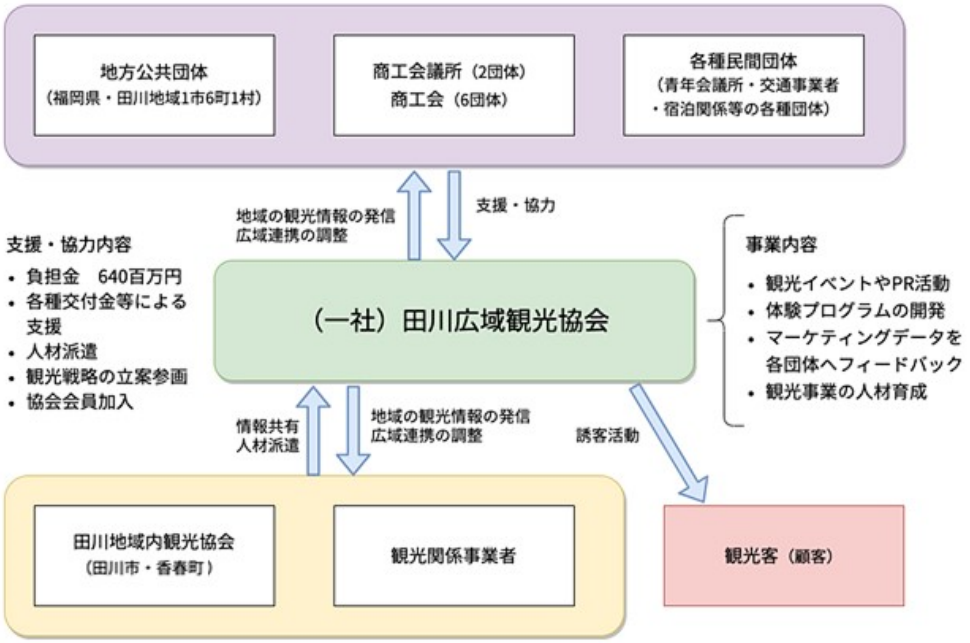
【実施体制の概要】

①（一社）田川広域観光協会は田川地域の１市６町１村が運営に参画しており、各種会議で意見交換や協議を実施している。協会の各種事業展開における最高意思決定機関は理事会であり、１市６町１村の首長や商工会議所、商工会、交通事業者等の代表で構成される。

②事業への協力体制強化のため月１回程度の行政観光担当者と協会事務局の会議を開催している。令和５年度は、組織変更や統一地方選挙等の関係で５回開催。

③１市６町１村の観光振興を担う協会であることから広域連携の調整役として、各種団体との協議や大型イベントの運営等を実施している。さらに、地域に点在する他の観光協会と観光施策や各種観光イベント情報等の情報共有や人材派遣を実施し広域的な観光事業の展開を図っている。

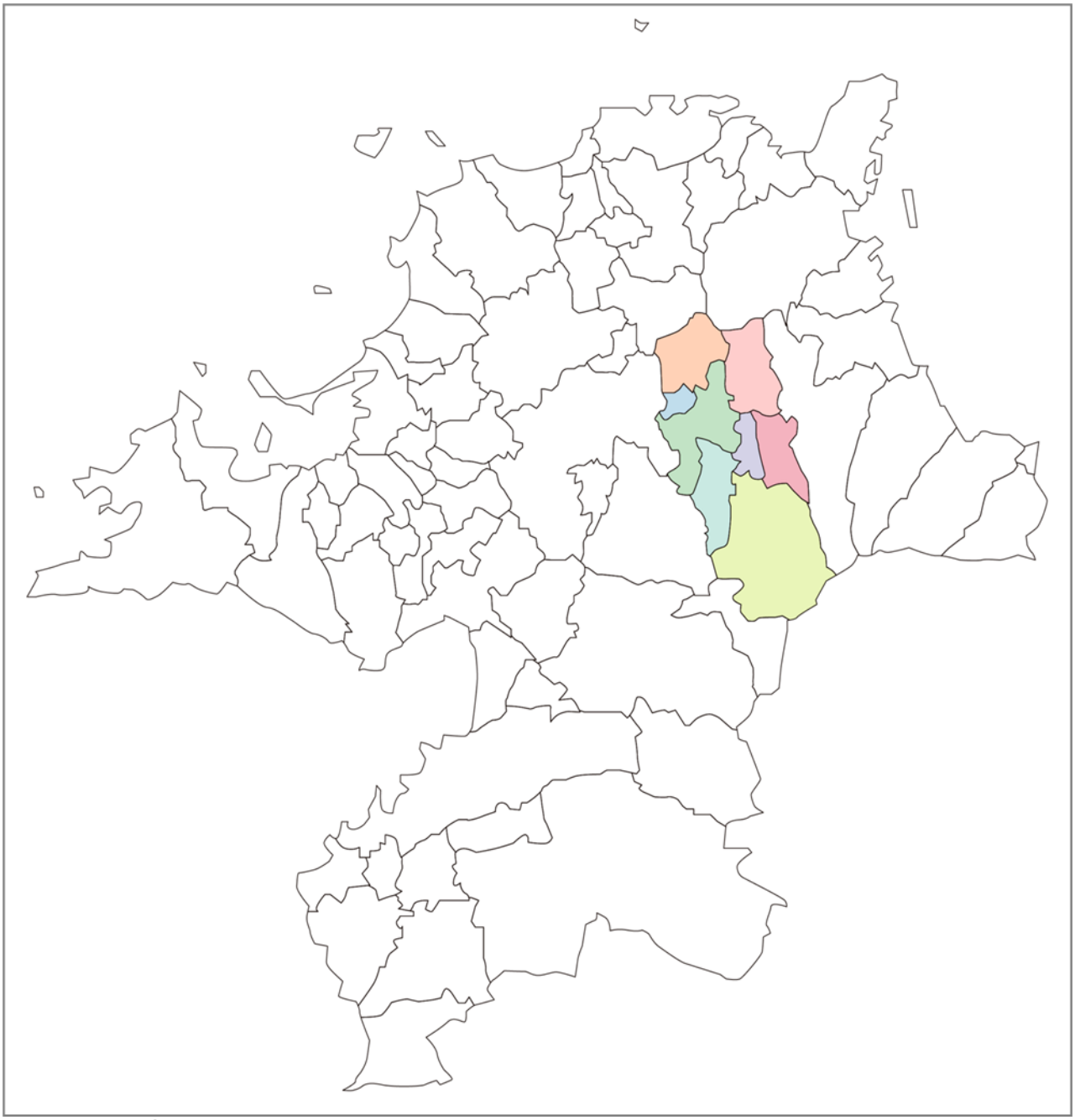
④観光関係事業者との連絡・調整を図るため、温泉施設、道の駅等の直売所、交通事業者と各部会や事業を通じて体験プログラムの開発や地域の情報の把握に努めている。

	⑤行政や商工会議所・商工会、観光関係事業者が参加できる各種セミナーの開催、観光マーケティングデータの分析結果の配付等を通じて情報や知識の共有を図っている。 **【実施体制図】** 実施体制図 

様式１

２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

田川地域の１市６町１村の広域的観光施策として、平成１８年に田川地域観光戦略策定協議会を設置し、翌年に地域の大学や観光事業者を加える形で田川地域観光推進会議を新設した。（一社）田川広域観光協会設立以前より、「田川はひとつ」というコンセプトのもと広域的観光振興に努めており、平成２４年に田川広域観光協会が設立されたことにより、官民一体となった効果的な観光プロモーションを共同実施できるようになった。また、田川地域の１市６町１村は歴史的・文化的面や北九州工業地帯を形成する地域という経済的面からみても共通点が多く、当該市町村で広域連携した区域設定が適切である。

【観光客の実態等】

年度	観光客入込客数	延べ宿泊者数	消費額等
令和４年度	3,458 千人	204 千人	3,704 百万
令和５年度	3,965 千人	201 千人	4,250 万円
令和６年度	4,081 千人	236 千人	4,527 百万円

（※データは、福岡県観光統計（平成３０年度まで)、田川広域観光協会（令和元年度より））

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

＜観光施設・文化施設・商業施設＞

田川市：石炭記念公園及び田川市石炭・歴史博物館（山本作兵衛コレクション)、田川市市民プール、田川市美術館、来てみんねかながわ、松原温泉、あおぎり（国登録有形文化財）

香春町：香春町歴史資料館、道の駅香春、香春神社、神間歩

添田町：道の駅歓遊舎ひこさん、ひこさんホテル和（休業中)、英彦山神宮、旧数山家住宅、深倉峡、英彦山修験道館、フォレストアドベンチャー・添田、ＢＲＴひこぼしライン

糸田町：道の駅いとだ、金山アジサイ公園、無双窯

川崎町：藤江氏魚楽園（休園中)、Ｄｅ・愛、ラピュタファーム

大任町：道の駅おおとう桜街道（直売所・温泉)、おおとう花公園、子ども広場

赤　村：赤村特産物センター、源じいの森（温泉・キャンプ場等)、トロッコ

福智町：ふくちのち（福智町立図書館・歴史資料館)、日王の湯、ふじ湯の里、ふれあい塾、上野焼陶芸館、城山横穴群、コトコト列車

＜自然・スポーツ＞

田川市：岩屋鍾乳洞、ロマンスが丘、成道寺公園、田川市総合体育館（アリーナ、トレーニング施設等）

香春町：香春岳、呉ダム渓流公園、九州自然歩道、総合運動公園

添田町：九州自然歩道、英彦山、深倉峡、鬼杉、男魂岩、岩石山、英彦山花公園、英彦山登山、サンスポーツランド、フォレストアドベンチャー・添田

糸田町：水落の滝、糸田町民グランド

川崎町：安宅の彼岸花、安宅の滝、田代の森、戸谷山、福岡フェザントカントリークラブ

大任町：成道の滝、（彦山川）水辺公園、菅原神社のイチイガシ、各種運動場、鷹羽ロイヤルカントリークラブ、Ｂ＆Ｇ海洋センター

赤　村：戸城山、九州自然歩道、ゲンジボタル、オオサンショウウオ

福智町：福智山、上野峡、白糸の滝、虎尾桜、定禅寺の滝、Ｂ＆Ｇ海洋センター、金田ふれあいスポーツ公園

＜歴史・文化・イベント＞

田川市：風治八幡宮川渡り神幸祭、TAGAWA コールマイン・フェスティバル～炭坑節まつり～、「炭坑節」発祥の地、菓子（黒ダイヤ、白ダイヤ)、ホルモン鍋

香春町：ふる里かわら夏祭り、ふる里かわら秋祭り、古宮八幡神社神幸祭、流鏑馬、仲哀トンネル

添田町：そえだ夏祭り、ふる里まつり、英彦山山開き、英彦山サイクルタイムトライアル大会

糸田町：糸田祇園山笠、田植祭

川崎町：あたか棚田彼岸花まつり、かわさきパン博、魚楽園紅葉ライトアップ

大任町：おおとうしじみ祭り、道の駅イルミネーション、道の駅おおとう桜街道夏祭り

赤　村：各地区神幸祭、赤村トロッコ定期運行、ＤＯ　ＹＯＵ　農？、石坂トンネル

福智町：福智スイーツ大茶会、上野焼窯開き（春・秋)、金田・神崎山笠競演会

日本の近代化を支えた石炭産業に関係する観光施設や文化財が田川市を中心に多数点在しており、広域的にそれらを結び付け一元的に観光情報を発信することで観光資源としての価値を高める。また、神事等の伝統行事が田川地域内に多数残っており、特に田川市の風治八幡宮川渡り神幸祭は福岡五大祭の一つであり、田川地域で開催される他の神幸祭と合わせて「田川の祭り」として写真展等のイベントや冊子を発行し情報発信をしている。さらに、田川地域では複数の市町村で大型イベントが開催されており、ＪＲ九州などの観光列車や臨時列車等の運転により誘客に繋がる取組を強化する。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

市町村名	宿泊施設数	部屋数	収容人数	備考
田川市	６	１７０	２６６	簡易宿泊含む
香春町	１	９１	１１６	本年度、新規開業予定
添田町	３	８０	５７２	公共の研修宿泊施設含む
赤村	１	２０	７０	
福智町	２	１０	８８	公共の研修宿泊施設含む
合計	１３	３６９	１，１１２	

【利便性：区域までの交通、域内交通】

①航空機・高速船（主要空港（港湾）から福岡県内空港（港湾）までの所要時間）

田川地域から交通アクセスの良い北九州空港までの所要時間は田川市から約４５分、福岡空港までは約１時間１０分程度である。また、福岡県は韓国とのアクセスも非常によく多数の空路や航路の定期便が就航している。

出発空港（港）	到着空港（港）	所要時間	備考
羽田空港	福岡空港	約１時間４０分	
関西国際空港	福岡空港	約１時間	
中部国際空港	福岡空港	約１時間３０分	
新千歳空港	福岡空港	約２時間１５分	
仁川国際空港	福岡空港	約１時間１５分	
羽田空港	北九州空港	約１時間１５分	
仁川国際空港	北九州空港	約１時間１５分	

②ＪＲ（新幹線）

田川地域における新幹線が停車する最寄りの駅はＪＲ小倉駅である。

出発駅	到着埒	所要時間
新大阪	小倉駅	約２時間１５分
広島駅	小倉駅	約５０分

③県内での移動（公共交通機関）

県内主要都市（福岡市・北九州市）から鉄道路線で繋がっており臨時ではあるが観光列車の運行もなされる。また、九州最大の繁華街である福岡市の天神から直通バスが運行しており利便性が良い。

出発地	到着場所	所要時間	備考
西鉄天神（福岡市）	後藤寺(田川市)	約１時間１０分	西鉄バス
博多駅（福岡市）	田川後藤寺駅（田川市）	約１時間１０分	ＪＲ九州
小倉駅（北九州市）	田川後藤寺駅（田川市）	約１時間	ＪＲ九州

③　県内での移動（自動車）

福岡市や北九州市からの所要時間は約１時間から１時間１０分程度であるが、高速道路のインターは約２５分から約４５分程度の場所にあることから県外からの高速道路を使用した場合の利便性は高い。

出発地	到着場所	所要時間
福岡市	田川市	約１時間００分
北九州市	田川市	約１時間

福岡ＩＣ	田川市	約４５分
小倉南ＩＣ	田川市	約２５分
八幡ＩＣ	田川市	約３５分

⑤域内交通

田川地域にはＪＲ九州日田彦山線、後藤寺線と第三セクターである平成筑豊鉄道伊田線、田川線、糸田線の合計５本の鉄道路線がある。また、路線バス（西鉄）も複数路線を運行し、各市町村は独自でコミュニティバスを運行しているため地域交通は充実している。

【外国人観光客への対応】

・観光誌等のパンフレットを多言語化対応。
・九州に滞在する外国人を対象としたにモニターツアーを実施し、おもてなしのスキルをアップする取り組みを実施している。

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
ＷＥＢサイトのアクセス状況	田川地域に対する関心度や情報発信力・効果を把握するため。	管理委託先から定期報告を受ける。
観光入込客数	田川地域への観光入込客数を把握のため。	福岡県が過去に実施していた観光統計調査を当協会が引継ぎマネージメントエリアにて実施。
旅行消費額	田川地域の経済効果・消費者のニーズを把握するため。	福岡県が過去に実施していた観光統計調査を当協会が引継ぎマネージメントエリアにて実施。
延べ宿泊者数	田川地域内の延べ宿泊者数や宿泊施設の稼働率を把握するため。	福岡県が過去に実施していた観光統計調査を当協会が引継ぎマネージメントエリアにて実施
来訪者満足度・リピーター率	観光地としてサービス・満足度の向上につなげるため。	各種アンケート調査による。 ※令和６年度は対面式アンケートを実施（田川市）
住民満足度	観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	アンケート調査を自主事業として実施。

４．戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

東京オリンピックが開催された昭和３９年に、筑豊炭田最大の事業所である三井田川鉱業所が合理化により整理され、その後１０年以内に田川地域の炭鉱は全て閉山した。石炭産業に次ぐ基幹産業であるセメント産業も平成不況により工場の閉鎖や減産を受け基幹産業の縮小による過疎化や労働人口の減少など田川地域は大きな問題を抱えることになった。そのような中で、平成２３年５月、日本で初めてユネスコの「世界の記憶」に「山本作兵衛コレクション」が選定され山本作兵衛翁が遺した、かつて日本の近代化と戦後の発展を支えたヤマの記録画と文書が世界の集合的記憶として高く評価されたことにより、地域における観光振興の盛上りを受け（一社）田川広域観光協会が設立された。
田川地域では、人口の流失を防ぎ、定住を進めるための対策として、中心市宣言した田川市と近隣６町１村がそれぞれ定住自立圏形成協定を結び田川定住自立圏共生ビジョンを策定し、それぞれの魅力

を活用し連携・協力する取り組みを平成２９年より実施している。そのビジョンの中で産業振興における取り組みとして、平成２８年に日本版ＤＭＯ候補法人に登録された田川広域観光協会と連携し、圏域外からの交流人口の獲得、伝統文化や炭鉱関連施設等を活かした観光商品の開発等の観光振興に係るビジョンが描かれている。
１市６町１村が合意した田川定住自立圏共生ビジョンのもと、田川地域の魅力を継続的に発信することにより、地域の歴史や文化に対して一体感の醸成と地域の個性を生み出す機会につながり、まちづくりの機運を高めることができる。将来的に民間資本による環境整備投資を引き出し、田川地域を鉱業都市から観光都市へ転都させるべく、「田川はひとつ」のコンセプトのもと強力に事業を推進している。なお、上記の取組みの一例として、令和４年１２月１９日には、添田町の英彦山に関する文化財の保護や地域振興を目的に地元経済界などでつくる「英彦山の歴史と文化を守る会」が設立され、今後、本格化する英彦山神宮上宮の改修工事やインバウンドの回復を見据え、当協会が中核になり地域一丸で支援していく体制が確立された。そして、令和５年１１月には、インバウンドに人気のある大相撲の横綱・照ノ富士関の奉納土俵入りが行われ、国内外の観光客が訪れた。また、彦山地区に所在するひこさんホテル和（なごみ）の指定管理者に、当協会の理事に就任いただき、マーケティングエリアの観光事業者間で活用方法を検討している。

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	**強み（Strengths）** ・世界の記憶「山本作兵衛コレクション」を田川市石炭・歴史博物館等が所有している。 ・日田彦山線ＢＲＴ「ひこぼしライン」の開業。 ・地元経済界などでつくる「英彦山の歴史と文化を守る会」が設立され、今後本格化する英彦山神宮上宮の改修工事やインバウンド獲得の動きが本格化。 ・五木寛之氏の小説「青春の門」の舞台であり、全国的に「香春岳」や「炭鉱」というキーワードが知られている。 ・筑豊炭田最大の炭鉱である三井田川鉱業所の公園化や保存、資料等の保存（石炭産業に関係する専門の博物館）など長年に渡り実施している。 ・「炭坑節」発祥の地であり、TAGAWA コールマイン・フェスティバル～炭坑節まつり～等の開催により文化や等の普及が図られている。 ・多彩な神事（神幸祭）が行われている。 ・道の駅が４つもあり、他にも農産物直売所等の施設が多数ある。 ・第３セクターの平成筑豊鉄道が豪華観光列車を運行している。 ・田川地域では観光以外にも広域連携を実施しており、住民の意識に「田川はひとつ」という認識がある。 ・九州オルレなどのトレッキングコースがある。	**弱み（Weaknesses）** ・観光消費額（客単価）を底上げできる宿泊施設が不足している。 ・外国語のパンフレットや宿泊施設等のインバウンド対応が不完全である。 ・観光産業へ投資できる企業が少ない。 ・福岡市、北九州市から移動時間に１時間程度の時間を要す。 ・旧産炭地としてのイメージが残っている。 ・大型観光施設や魅力的な観光施設が不足している。 ・１市６町１村にて観光振興へのスタンスに違いがみられる。

様式１

外部環境	機会（Opportunity） ・旅行形態の多様化による滞在交流型観光が注目されている。 ・国の観光政策による後押し。 ・ＪＲ九州による観光列車運行（臨時）による日田彦山線沿線の活性化を目的として事業の展開。 ・日田彦山線ＢＲＴひこぼしラインの開業による民間企業の後押し、実証事業の参加。	脅威（Threat） ・観光事業における従業員等の人材不足。 ・福岡市への一極集中による北九州都市圏の規模縮小による交流人口等の減少。 ・インバウンドの宿泊地である福岡市の宿泊施設が不足しており、海外旅行会社との調整が難しい。

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（３）ターゲット

〇第１ターゲット層
福岡市・北九州市及びその周辺に住む 60 歳代以上のシニア層

〇選定の理由
福岡市と北九州市の人口は福岡県の人口の約半数である約２５０万人（九州の人口の約２０％）を占めており、効率的なＰＲやその効果が期待できる。また、田川地域は両市から車で１時間程度の距離にあり、日帰り観光には適した距離にあり、複数回の来訪が期待できる。
６０歳代以上のシニア層は、時間的・金銭的にもゆとりがあり、田川地域には道の駅４施設や多数の農産物直売所が点在しており来訪動機を得やすい。また、新規バイパスの開通などによる交通アクセスの改善も日帰り客の誘客に期待できる。
〇取組方針
福岡市や北九州におけるＰＲ活動として両市に立地する大型商業施設における販売促進活動やスタンプラリー機能が付随した観光誌の戸別配布によるＰＲ活動を実施している。また、福岡県観光連盟のホームページ等の他団体Ｗｅｂサイトにおいて情報発信を実施している。

〇第２ターゲット層
産業遺産を中心とした歴史等に関心がある層

〇選定の理由
日本の近代化を支えた筑豊炭田の中でも田川地域には多くの文化財や遺構が多数残っており来訪の目的になっている。世界の記憶に選定された「山本作兵衛コレクション」、平成３０年に国の史跡に指定された三井田川鉱業所伊田坑跡を含む「筑豊炭田遺跡群」は日本の近代化を知るうえで重要な価値を有す。なお、史跡に所在する田川市石炭・歴史博物館の入館者（令和５年度における有料入館者数）は１６，３６０人であり、地域外の利用者が７０％である。また、石炭や石灰石を輸送する目的に敷設された鉄道路線が５路線も残っており、電化されていない路線には架線がないため気動車等の観光列車の運行には乗車客や写真愛好家が多数訪れる。
産業遺産だけではなく、添田町の英彦山は日本三大修験道の霊場の一つとして広く九州全域の人々の信仰を集めていた山であり、霊山にふさわしく、樹齢１，２００年といわれる鬼杉を筆頭に巨木が林立し、奇岩や怪岩が点在し、英彦山ならではの自然景観が今も残っている。なお、英彦山における最も有効的な観光データとして、有料のスロープカー利用者は５８，０００人（令和６年度）であり、田川地域最大の観光スポットとなっている。田川地域には近代化による産業遺産だけではなく、古代、中世を中心とした文化財や遺跡が多数残っており有効的に活用することで歴史愛好家の来訪に繋がる。
〇取組方針
産業遺産や現在でも産出される石灰石をテーマにした工場体験や石炭産業を学べるツアーの実施により誘客活動を実施している。
・セメント工場（麻生セメント田川工場）に隣接するＪＲ船尾駅を活用したツアー
・香春岳山頂見学会（太平洋セメント系列）

○第３ターゲット層 歴史や自然体験を求める韓国からのインバウンド
○選定の理由 古くから田川地域を含む北部九州と朝鮮半島は交流が盛んであり、朝鮮半島ゆかりの文化財等が多く所在しており、訪日客も一定数いる。 九州観光推進機構が整備する九州オルレは、韓国の済州オルレの姉妹版であり、田川郡香春町に平成２９年に新設され、福岡県観光連盟の協力・支援のもと韓国からの誘客が実施さている。また、マーケティングエリア内には２つのゴルフ場があり、ひとつは韓国資本となっていることから、年１０００人規模のインバウンド利用者がある。 九州の入国外国人の約７割は東アジア人が占めていることや福岡県からの地理的な近さを考えると、韓国を中心とした東アジア人は田川地域と大陸との交流の歴史や自然景観を観光資源とした取組を行うには適したターゲットと考える。 ○取組方針 九州オルレ筑豊・香春コースへ参加を目的とした日帰りバスツアーの助成やパンフレット等の作成による集客を実施している。

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	大空がミュージアム ～　巡る、触れる、体感する　観光まちづくり～
② コンセプトの考え方	「観光による地域振興」とは「まちづくり」であるという（一社）田川広域観光協会の協会理念をもとに各種事業の展開を図っていく。 認知度調査から田川地域における認知キーワードの上位は「石炭」、「香春岳」、「英彦山」など歴史や史跡（名勝）と直結したものが多い。また、来訪目的の調査から福岡市や北九州市から車で１時間程度の立地であるため気軽に訪れることができ、地域の特産品を道の駅をはじめとする直売所で購入できることも田川地域への来訪目的である。 観光・農業・歴史・文化・食といった豊富な観光資源を活用した観光商品の造成・販売することで田川地域の観光振興に努めることで交流人口の拡大を図る。交流人口の拡大により田川地域にある「観光資源を巡り、人々と触れ合い、感動を体験する」を通じて一人でも多くの田川ファンを増やす目的が込められている。

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	・（一社）田川広域観光協会の総会や理事会を通じて広域連携の代表者間で協会事業方針や事業展開などの合意形成を図る。 ・観光担当者・部会長会議、まちづくりプロデューサー会議において多様な関係者との意見交換を行うことで、実務者同士での観光戦略の共有を図る。また、大型イベントや観光に関係するセミナーを共同開催することで協同組織としての意識を高める。 ・観光人材を育成するため他の観光協会、観光事業者等とセミナーを実施しおもてなしの向上や最新のビジネスモデル等を学ぶ研修を実施し、関連事業者の支援を行う。

	＜共有手段＞ ・理事会並びに総会（令和６年度２回実施） 田川地域１市６町１村の市町村長をはじめとする理事・監事等に対して事業報告、年度事業報告を実施する。また、動態調査などから分析したマーケティング情報を報告し情報共有を図る。 ※正・副理事長会議は４回開催 ※理事で構成される商工会議所会頭・商工会会長会議（８団体）は５回開催 ・観光担当者・部会長会議（令和６年度６回実施） 田川地域の観光戦略や事業展開について上記会議にて協議している。また、マーケティング調査等の分析結果を積極的にフィードバックしている。 ・まちづくりプロデューサー会議（令和６年度１２回（２部会合計）） 田川地域の観光協会職員、青年会議所会員、宿泊事業者等から構成されており、マーケティングの分析結果のフィードバックや各種団体の観光事業等の情報交換を実施している。 ・温泉施設部会（令和６年度１回実施） 入館者データの提供、共通温泉券の販売などを話し合う。 ・交通部会（令和６年度１回実施） 交通アクセスの改善、パンフレットの配架などを協議
観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	・対象地域の自治体や関係団体等にマーケティング調査の分析結果をフィードバックすることにより、観光客のニーズをサービス等に反映させることにより、来訪者満足度の向上につなげる。 ・観光振興につながる各種セミナーを実施することで、他地域の観光戦略を学ぶことで新しいサービスやおもてなし方法を創成する。 ・令和６年度は、先進地研修（関門ＤＭＯ（観光まちづくり法人））を実施。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	・個別の自治体における観光ＰＲは各自治体で実施し、広域的な観光ＰＲ（広域情報を掲載した観光誌の発行や首都圏等での物産販売等）は田川広域観光協会が実施している。 ・観光情報誌の発行では田川地域の神事を特集した冊子を発行。 ・交通事業者との間には観光誌の配架に関する合意形成が出来ており、鉄道駅舎やタクシーで観光誌を配付している。 ・田川地域内に点在する道の駅４施設の情報発信コーナーにてイベント情報等の情報発信協力の構築ができている。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

６．ＫＰＩ（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。
※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●旅行消費額（百万円）	目標	3,010	4,047	4,600	4,600	5,000	5,100
		(20)	(80)	(80)	(65)	(80)	(100)
	実績	3,704	4,250	4,527			
		(37)	(20)	(35)			
●延べ宿泊者数（千人）	目標	205	210	220	250	250	250
		(1)	(2)	(2)	(5)	(5)	(5)
	実績	204	201	236			
		(1)	(1)	(2)			
●来訪者満足度（%）	目標	85	85	70	75	80	80
		(-)	(30)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	82	60	61			
		(-)	(-)	(-)			
●リピーター率（%）	目標	90	90	60	65	70	70
		(-)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)
	実績	85	55	67			
		(-)	(-)	(-)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
旅行消費額並びに延べ宿泊者数の実績は、平成３０年度まで福岡県が実施していた福岡県観光統計と同一の調査を実施している。また、平成２９年度より交流人口動態調査を実施しており、調査結果を踏まえ目標の設定をしている。なお、令和７年度以降の数値目標については、市町村観光担当者と報告（令和７年７月中旬）のうえ決定した。
【設定にあたっての考え方】
●旅行消費額
令和年８度に新規の道の駅がオープン（埋蔵文化財包蔵地発掘調査のため延期）することから、令和８年度の旅行消費額が増加（年４億円程度）する見込みであり、目標値を設定している。なお、消費単価は令和６年度実績に近い１，０７０円程度に設定し、入込客数の伸び率と連動させている。
●延べ宿泊者数
令和７年度に宿泊施設の新規開業が予定されているため、年間ベッド使用数の予想値を目標値に加味し増加させている。また、令和８年度以降の宿泊者数の目標は新規宿泊施設の開設などがあれば、目標値の見直しを実施したい。
●来訪者満足度
来訪者満足度の算出方法は田川市での対面アンケートによる回答である。なお、数値の算出については、実際に観光で来訪された方の満足度と交通アクセスに係る満足度を合わせたものを合算した数値である。過去、来訪者の満足度統計を記載していたが、満足度の数値が高く令和５年度１１月に専門家と協議し、交通に係る満足度との合算数値を記載するようにした。交通アクセスに関しては、最寄

りの空港である北九州空港へのアクセス道路の国道２０１号線では慢性的な渋滞が起こっており、不満の声がある。
●リピーター率
本年度のリピーター率は、田川市で対面アンケート調査の数値である。昨年度からリピーターの定義を４か月以内の再来訪者としており、入込客数の６割以上がリピーターだと言える。福岡・北九州都市圏の県総人口に占める割合が７割を超えることから、両都市圏で効果的にＰＲすることで、リピーターの獲得を目指す。マーケティングエリア内に子育て世代をターゲットにした、誘客施設も開設されたことから、若年層のリピーターが増えること想定し、目標値を設定した。

（２）その他の目標

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●観光入込客数（千人）	目標	4,599	4,200	4,300	4,150	4,500	4,800
		(2)	(12)	(13)	(13.5)	(15)	(18)
	実績	3,458	3,965	4,081			
		(6)	(5)	(8)			
●観光地認知度（%）	目標	90	90	90	90	90	90
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	85	86.9	87			
		(-)	(-)	(-)			
●YouTube チャンネル登録数（人）	目標	500	1,500	1,800	2,500	3,000	4,000
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	910	1,200	1,690			
		(-)	(-)	(-)			
●Ｗｅｂアクセス数（千回）	目標	250	294	330	350	380	410
		(5)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)
	実績	279	321	221			
		(8)	(10)	(5)			

※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
観光客入込数の増加は交流人口拡大を目標とする協会の方針と合致するため目標と定め、観光地認知度は観光客の来訪目的を図るために設定した。また、情報発信の効果を確認するひとつの目安として、ＷＥＢアクセス数と YouTube チャンネル登録数を設定している。
【設定にあたっての考え方】
●観光入込客数
田川地域における旅行消費額と単価の数値から算出した。また、インバウンドの観光入込客数は総客数の３%程度に設定している。なお、令和８年度の観光入込客数の目標値設定の理由として川崎町に道の駅が開設されるため、入込客数の増加が見込まれるため上記の目標値を設定した。
●田川地域の認知度
　認知度調査は田川市で対面アンケート調査によるものであり、「田川地域の観光地を知っているか」という質問項目を設定し実施した。
●YouTube チャンネル登録数
　田川広域観光協会では歴史・文化に係る動画を動画投稿サイト YouTube にて動画配信を実施している。過去、フェイスブックをＫＰＩの目標数値に設定していたが、フェイスブックの利用者減少を鑑

み、新たな目標指数として YouTube チャンネル登録者数をＫＰＩに設定した。本年度は投稿本数が少なく、チャンネル登録者数が増えず、令和７年度以降に投稿を増やす取組みを実施する。
●Ｗｅｂアクセス数
令和７年度に協会ホームページを改修しており、大幅なアクセス数の増加を予想していたが、１０万回近くの減少となっている。理由として、ホームページを閲覧しやすくしたため、掲載内容のボリューム低下が原因ではないかとの意見があり、令和７年度以降は、改修前までの数値にアクセス数に戻るように努め、令和６年度の目標値をそのまま設定している。

７．活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後３年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。
※現に活動している法人にあっては、過去３年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）	
2022（Ｒ４）年度	34,326,994 円	【市町村負担金】 【商工会議所・商工会負担金】 【受託事業収入】 【収益事業】 【会費】 【協会運営強化金より捻出】 【前期繰越金】 【その他】	6,000,000 円 4 00,000 円 7,546,000 円 180,270 円 1,138,000 円 12,500,000 円 5,562,673 円 1,000,051 円
2023（Ｒ５）年度	26,017,596 円	【市町村負担金】 【商工会議所・商工会負担金】 【受託事業収入】 【収益事業】 【会費】 【協会運営強化金より捻出】 【前期繰越金】 【その他】	6,000,000 円 4 00,000 円 6,382,000 円 1,034,380 円 1,026,000 円 3,000,000 円 7,860,000 円 315,216 円
2024（Ｒ６）年度	23,795,000 円	【市町村負担金】 【商工会議所・商工会負担金】 【受託事業収入】 【収益事業】 【会費】 【前期繰越機】 【協会運営強化金より捻出】 【その他】	6,000,000 円 4 00,000 円 6,380,000 円 3,344,000 円 928,000 円 4,740,000 円 2,000,000 円 1,000 円
2025（Ｒ７）年度	23,687,000 円	【市町村負担金】 【商工会議所・商工会負担金】 【受託事業収入】 【会費】 【前期繰越機】 【協会運営強化金より捻出】 【その他】	6,000,000 円 4 00,000 円 9,980,000 円 1,600,000 円 3,705,000 円 2,000,000 円 2,000 円

様式１

2026（Ｒ８） 年度	24,900,000 円	【市町村負担金】 【商工会議所・商工会負担金】 【受託事業収入】 【収益事業】 【会費】 【協会運営強化金より捻出】	6,000,000 円 4 00,000 円 14,000,000 円 1,500,000 円 2,000,000 円 1,000,000 円
2027（R9） 年度	30,900,000 円	【市町村負担金】 【商工会議所・商工会負担金】 【受託事業収入】 【収益事業】 【会費】 【協会運営強化金より捻出】	6,000,000 円 4 00,000 円 20,000,000 円 1,500,000 円 2,000,000 円 1,000,000 円

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）	
2022（Ｒ４） 年度	24,196,055 円	【一般管理費】 【情報発信・プロモーション活動】 ・観光誌・スタンプラリーの発行 ・観光誘客自主事業 ・観光ＰＲ動画制作 ・インバウンド対策（ツアー） 【マーケティング（人材育成含む)】 ・認知度調査 【歴史・文化に係る図書作成費】 【観光イベントの開催費】 【市民講座の開催費】 【会員維持促進費・予備費】 【その他】 【租税公課】 【次年度繰越金】	9,331,098 円 3,922,810 円 （200,000 円） 132,984 円 8,127,950 円 3,148,686 円 625,208 円 78,100 円 1,028,840 円 71,000 円 7,860,318 円
2023（Ｒ５） 年度	26,017,596 円	【一般管理費】 【情報発信・プロモーション活動】 ・観光誌の発行 ・観光誘客自主事業 ・都市圏ＰＲ活動 ・インバウンド対策 【マーケティング（人材育成含む)】 ・視察研修 ・外部講師招聘 ・認知度調査 【ツアー等造成】 【歴史・文化に係る図書作成費】	9,429,977 円 3,124,540 円 （300,000 円） 766,153 円 1,605,965 円 4,332,951 円

様式１

		【観光イベントの開催費】	1,329,450 円
		【市民講座の開催費】	426,967 円
		【会員維持促進費・予備費】	118,600 円
		【その他】	143,070 円
		【次年度繰越金】	4,739,923 円
2024（Ｒ６） 年度	23,795,000 円	【一般管理費】	10,106,000 円
		【情報発信・プロモーション活動】	3,614,000 円
		・観光誌の発行	
		・観光誘客自主事業	
		・ホームページの製作	
		・インバウンド対策	（500,000 円）
		【マーケティング（人材育成含む）】	720,000 円
		・視察研修	
		・認知度調査	
		【観光イベントの開催費】	4,211,000 円
		【市民講座の開催費】	388,000 円
		【会員維持促進費・予備費】	80,000 円
		【その他】	971,000 円
		【次年度繰越金】	3,705,000 円
2025（Ｒ７） 年度	23,687,000 円	【一般管理費】	11,028,000 円
		【情報発信・プロモーション活動】	4,700,000 円
		・インバウンド対策	（1,500,000 円）
		【マーケティング（人材育成含む）】	1,000,000 円
		・視察研修	
		・認知度調査	
		【観光イベントの開催費】	3,380,000 円
		【市民講座の開催費】	1,500,000 円
		【会員維持促進費・予備費】	200,000 円
		【その他】	1,000,000 円
		【予備費】	879,000 円
2026（Ｒ８） 年度	24,900,000 円	【一般管理費】	11,500,000 円
		【情報発信・プロモーション活動】	4,900,000 円
		・インバウンド対策	（2,500,000 円）
		【マーケティング（人材育成含む）】	1,400,000 円
		・視察研修	
		・認知度調査	
		【観光イベントの開催費】	2,300,000 円
		【市民講座の開催費】	3,000,000 円

		【会員維持促進費・予備費】	300,000 円
		【予備費】	1,500,000 円
2027（Ｒ９）年度	30,900,000 円	【一般管理費】	11,500,000 円
		【情報発信・プロモーション活動】	5,500,000 円
		・インバウンド対策	(2,000,000 円)
		【マーケティング（人材育成含む)】	2,000,000 円
		・視察研修	
		・認知度調査	
		【観光イベントの開催費】	7,300,000 円
		【市民講座の開催費】	2,000,000 円
		【会員維持促進費・予備費】	300,000 円
		【予備費】	2,300,000 円

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

①田川広域観光協会の事業展開や協会単独による補助金等の獲得のため一般会計とは別に運営資金を運用している。令和７年３月３１日における運営資金は約２千万円超の資金がある。
②新・田川紀行の販売などの自主事業による入場料収入やイベント参加費により資金確保。
③負担金確保のため構成市町村に負担金措置の依頼を継続的に実施している。
④受託事業収入確保のため福岡県や市町村に事業継続を依頼し受託事業収入の安定的な確保を実施している。(次年度の委託事業も確約済み)
⑤１市６町１村に在住する会員からの会費を確保。

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

※設定対象区域の都道府県及び市町村が、本法人を当該都道府県・市町村における観光地域づくり法人として認める旨を含む意見を記入すること。
福岡県、田川市、香春町、添田町、糸田町、川崎町、大任町、赤村、福智町は、観光地域まちづくり法人（地域連携ＤＭＯ）である（一社）田川広域観光協会を田川地域における観光振興のプラットホームとして今後も支援・活用いたします。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

様式１

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	坪根　法広
担当部署名（役職）	一般社団法人田川広域観光協会（課長）
郵便番号	825-8501
所在地	田川市魚町８-２７　三愛ビル１階
電話番号（直通）	０９４７-４５-０７００
ＦＡＸ番号	０９４７－４５－０７１０
Ｅ－ｍａｉｌ	tagawa-net@tagawa-net.jp

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	田川市
担当者氏名	久富　勝之
担当部署名（役職）	産業振興課（課長）
郵便番号	825-8501
所在地	田川市中央町１番１号
電話番号（直通）	0947-85-7147
ＦＡＸ番号	0947-46-0124
Ｅ－ｍａｉｌ	miryoku@lg.city.tagawa.fukuoka.jp

都道府県･市町村名	香春町
担当者氏名	岩丸　剛
担当部署名（役職）	産業振興課　（課長）
郵便番号	822-1492
所在地	田川郡香春町大字高野 994 番地
電話番号（直通）	0947-32-8406
ＦＡＸ番号	0947-32-4815
Ｅ－ｍａｉｌ	shokoukankou@town.kawara.fukuoka.jp

都道府県･市町村名	添田町
担当者氏名	渡部　真紀
担当部署名（役職）	商工観光振興課（課長）
郵便番号	824-0691
所在地	田川郡添田町大字添田 2151 番地
電話番号（直通）	0947-82-1236
ＦＡＸ番号	0947-82-2869
Ｅ－ｍａｉｌ	kankou@town.soeda.fukuoka.jp

様式１

都道府県･市町村名	糸田町
担当者氏名	藤村　知亮
担当部署名（役職）	地域振興課　（課長）
郵便番号	822-1392
所在地	田川郡糸田町 1975 番地 1
電話番号（直通）	0947-26-4025
ＦＡＸ番号	0947-26-1651
Ｅ－ｍａｉｌ	chiiki@town.itoda.lg.jp

都道府県･市町村名	川崎町
担当者氏名	谷　隆行
担当部署名（役職）	商工観光課　（課長）
郵便番号	827-8501
所在地	田川郡川崎町大字田原 789 番地 2
電話番号（直通）	0947-72-3000（代表）
ＦＡＸ番号	0947-72-3416
Ｅ－ｍａｉｌ	syoukou@town.fukuoka-kawasaki.lg.jp

都道府県･市町村名	大任町
担当者氏名	嶋野　ゆかり
担当部署名（役職）	産業経済課　（課長）
郵便番号	824-0512
所在地	田川郡大任町大字大行事 3067 番地
電話番号（直通）	0947-63-3001
ＦＡＸ番号	0947-63-3813
Ｅ－ｍａｉｌ	sankei2@town.oto.fukuoka.jp

都道府県･市町村名	赤村
担当者氏名	田中　秀幸
担当部署名（役職）	総務課　（課長）
郵便番号	824-0432
所在地	田川郡赤村大字内田 1188 番地
電話番号（直通）	0947-62-3000
ＦＡＸ番号	0947-62-3007
Ｅ－ｍａｉｌ	aka-seisaku@vill.aka.lg.jp

都道府県･市町村名	福智町

様式１

担当者氏名	木村　貴代美
担当部署名（役職）	企画振興課（課長）
郵便番号	822-1292
所在地	田川郡福智町金田 937 番地 2
電話番号（直通）	0947-22-7766
ＦＡＸ番号	0947-22-9091
Ｅ－ｍａｉｌ	fg0500@town.fukuchi.lg.jp

（登録）【地域連携DMO】一般社団法人田川広域観光協会

様式2

記入日： 令和7年7月30日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】
福岡県田川市、香春町、添田町、糸田町、川崎町、大任町、赤村、福智町
【設立時期】 平成24年4月12日
【設立経緯】 ①区域に観光協会があるが、役割分担等をした上でDMO新設
【代表者】 理事長　二場　公人
【マーケティング責任者（CMO）】 坪根　法広
【財務責任者（CFO）】 原田　忠
【職員数】 3人（常勤3人）
【主な収入】
負担金600万円、受託事業1,000万円、会費100万円、その他、500万円
【総支出】
管理費1,100万円、情報発信500万円、マーケティング、100万円、イベント開催費用200万円、市民講座開催費用200万円
【連携する主な事業者】
・JR九州、日本航空、平成筑豊鉄道、田川構内自動車
・道の駅（4施設）、温泉施設（5施設）、域内観光協会（2団体）
・商工会議所（2団体）、商工会（6団体）や農協、青年会議所等

KPI（実績・目標）

※（ ）内は外国人に関するもの。

項目		2022（R4）年度	2023（R5）年度	2024（R6）年度	2025（R7）年度	2026（R8）年度	2027（R9）年度
旅行消費額（百万円）	目標	3,010（20）	4,047（80）	4,600（80）	4,600（65）	5,000（80）	5,100（100）
	実績	3,704（37）	4,250（20）	4,527（35）	—	—	—
延べ宿泊者数（千人）	目標	205（1）	210（2）	220（2）	250（5）	250（5）	250（5）
	実績	204（1）	201（1）	236（2）	—	—	—
来訪者満足度（%）	目標	85（–）	85（30）	70（–）	75（–）	80（–）	80（– ）
	実績	82（–）	60（–）	61（–）	—	—	—
リピーター率（%）	目標	90（–）	90（10）	60（10）	65（10）	70（10）	70（10）
	実績	85（–）	55（–）	67（–）	—	—	—

戦略

【主なターゲット】
福岡市、北九州市及びその周辺に住むシニア層
【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
九州の2割以上を有する両市は、田川地域から年に複数回の来訪が可能な距離に位置している。両市に継続的に観光誌を配布するなど、来訪動機を増やす取組みを実施している。
【観光地域づくりのコンセプト】
「観光振興」は「まちづくり」であるという協会理念のもと各種事業展開を図っている。本地域は「石炭」、「セメント」、「英彦山」のイメージがあり、それらを強く発信するPRを実施している。

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】
・石炭・セメントに着目したツアーを造成
福岡県北部は日本有数のセメントの生産量を誇る。特に日田彦山線沿いには、日本最大級の鉱山、セメントの輸送に使われた鉄道遺構が点在している。JR九州の特急列車を使用したツアーは遠方から多くの方が参加する。
・石炭に関連する文化の醸成
五木寛之の『青春の門』の舞台である田川地域は、石炭に関連する文化が色濃く残る。炭鉱マンが愛した「田川ホルモン鍋」などを堪能できるツアーを造成。

【情報発信・プロモーション】
「田川（8市町村）はひとつ」のもと情報発信を実施している。ホームページや観光誌などは、常に一元的な発信ができるように調整。紙面等についても、地元民も楽しめるような取組みを行っている。また、YOUTUBEの登録者数を増やす取組みを実施している。チャンネル登録者数は1，700人。